高崎市立中尾中学校
１年６組学級だより
No.59

りん
凜

平成 20 年２月４日（月）
〒370-0001　　高崎市中尾町 791
℡　027-361-8810　　新井　国彦

「いじめ問題」･･･道徳で考える

卑怯は醜い/真のかっこよさを生きよう！

人が集まり生活する中で、心が育っていないといじめや仲間外れが起こります。エゴむき出しの人に引きずられ、本当はそんな気持ちはなかったのに、言ってしまったりしてしまったり・・・。それが多くの人の行いかも知れません。

でも、いじめの対象になった人にとってはたまったものではありません。自分に明らかな落ち度（自分の意地悪い行いが反感を買う）などがあったなら、自業自得と思えるかもしれませんが、普通にしているのにいつの間にか避けられたり、笑いものにされたりしたら、どうしたらいいでしょう？

今回（1/31）、道徳でみなさんに読んでもらった資料は、心打つものでした。それは救う人がいるからです。格好いいですね！・・・こんなせりふを言い、弱者の味方になれたら、本当の人間をしていると言えるのではないでしょうか。

//

＜資料の一部・・・高岡市立南星中学校３年　炭谷英信君の作文より＞

「とける」「腐る」
この言葉は、過去の僕を苦しめ続けた最低の言葉です。
「友情」
これは、過去において、僕を救ってくれ、現在の僕を築いてくれた大切なものです。

小学校５年の時、僕は、いじめに合っていました。登校したとたんに、クラスのみんなに避けられ、ちょっとでも机や椅子に触れると「うわぁ。机がとける。」と言われ、
（略）

・・・そんな学校生活とは離れた環境の、楽しみな宿泊学習で・・・

昼食で、カレーライスを食べていた時のことです。隣の子のスプーンを包んでいた紙が落ちたので、拾ってあげようと、紙に触れた瞬間、「うわぁ。紙が腐る。紙が腐る。」と言われたのです。

せっかく楽しく過ごしていたのに、どうして、こんなところに来てまで嫌なおもいをしなくちゃいけないのだろう。自分は、何のためにここへ来たのだろう。そう思ったら、くやしくて、情けなくて目からは、涙があふれて止まりませんでした。

僕は、皿の上に涙を落とし、全身に力を入れながら、耐えていました。
その時、他のクラスの男子数名が、僕の様子に気づいて、「どうした。炭谷。」と声をかけてくれました。
事情を話すと、彼らは、隣の子に向かって、「どこが腐ってんだよ。言ってみろよ。」「二度と、言うなよっ。」と僕を守ってくれたのです。
僕は、正直なところ、ホッとしたというよりもとてもスッキリした気分になりました。そして、初めて、人の温かさを感じることができたように思いました。心の中で、何度も何度も「ありがとう。」と繰り返していました。

（略）

//

私はこれを読むと、炭谷君を守ってくれた人たちが本当に格好良いと思うのですね。何度読んでも格好いいなあ！　自分もこんなふうにしてみたいなあ！　と思うのです。
人は、一つの言葉に苦しみ、一つの言葉に救われるのです。だとしたら、救う言葉を言う人になりたいですね。炭谷君はどんなに苦しかっただろう、つらかっただろうと思うと、この声をかけて守ってくれた人達は神様以上でしょう。きっとそれまでに何度も神様に救いを求めていたでしょうから。

＞＞＞みなさんが道徳の時間に考えたことから

- 今日５時間目にいじめのことの作文を読んだ。その作文を読んでいじめはひどさによっては人の命をうばってしまうものなのだと改めて思った。人の命を守るために、いじめがあったら止めてあげたいと思う。（A君）
- 今日、道徳があった。炭谷君が書いた少年の主張を読んで、「友情」「友達」とはどういうものかを今までで考えたことがなかったけれど、初めて考えさせられた。私は、思いやり相手を気づかうことができる優しい人になりたいと思った。（Bさん）
- 今日の５時間目の道徳では、小学校５年生でいじめられた炭谷君の話をしました。僕も友達関係でいじめられていました。僕もいじめられる人を守ってあげたいです。（C君）
- 改めていじめの怖さを知った。炭谷君をいじめていた人は、きっと幸せにはなれないと思う。炭谷君は、苦しかっただろうが、救われたことである意味「幸」を体験したと思う。（D君）
- 意地悪をする人もいれば、ちゃんと助けてくれる人もいるんだなあと思いました。いろいろないじめの行為と、そのことによりクラスの雰囲気も悪くなり、クラス自体が悪くなったのも、炭谷君にとってはつらかったと思います。（Eさん）